

「福島から避難しています。原発問題もっと広く宣伝してください」(南流山駅)

「いま、活発に動いているのは共産党だけ」…保守議員の言葉です。日本共産党は、全党が救援・復興活動といっせいで地方選挙勝利を目指す活動に全力で取り組んでいます。

30日には、徳増議員と小田桐議員が早朝駅宣で被災者救援を訴えました。午後の時間には、小田桐議員が路地裏での宣伝に取り組みました。

夕方には、いぬい議員が南流山駅で被災地の救援・

復興を訴えました。震災問題特集の赤旗号外を配りながら、救援募金への協力を訴え、原発政策の見直しを訴えました。

小さな子をつれた女性が寄ってきて「福島から避難しています。原発事故が人災だともっと宣伝してください」と握手をしていきました。もう一人の女性も、「原発反対」と声をかけていきました。

震災直後から多くの市民の協力で避難所生活をささえています

●「4月から被災地に戻る家族などで避難所の人数が少なくなります」…市当局

明日から4月、新学期をまじかにひかえ避難所の被災者で福島に戻ろうという動きが出ています。市の担当部長は、「約束は2週間だった。いくところのない方は引き続き避難所に残れる。今、聞いているところでは、数日で帰る家族があって、1家族10数人になるようだ」といいます。

昼食の炊き出しボランティアの調整役になっている安藤さんのところにも、担当課から「4月から人数が

減るので老人福祉センターの調理場を被災者に開放できるよう検討している」との連絡が入りました。

日本共産党は、それぞれの避難者から話を聞いて、どんな支援ができるのか検討するため、小田桐議員、徳増議員と妹尾「生活と健康を守る会」会長が、避難所を訪問しました。

避難範囲が30キロに拡大しつつありますが、避難住民の受け入れは、これからも必要な支援です。

●「流山市に住まいを移し再出発します」

老人福祉センターで避難生活をおくっている南相馬市のTさん一家は、「生活と健康を守る会」と共産党市議団の支援で市内アパートに住居を確保し、生活保護を受けながら再出発することになりました。

屋内避難になっている20キロ～30キロに家があり、いつ戻れるかわかりません。職場も再開できず、離職手続きをとることになりました。市内在住の妹さんのところには、親族がやはり避難生活をおくっています。流山市で、仕事をさがして生活をささえ、いつか南相馬に戻りたいと考えています。

流山市は保護申請を受け取ったものの、避難所が住所では認めないと千葉県の指導で申請取り下げを求めてきました。しかし、粘り強い取り組みで、再出発することが決まったのです。

○三郷市の避難所では、弁護士による相談がおこなわれています。50人の児童・生徒の学校の転入の手続きも行われています。
○柏市の避難所には最大226人が避難していましたが、現在は100人ほど。避難所には5人の市職員がローテーションで24時間対応しています。その他社協のボランティアが協力しています。食事はなく、ライオンズクラブなどが炊き出しをする日もあるとのことです。

●震災にかかわる行政の窓口は

流山市東日本大震災相談センター

7158-1111 市役所

●救援活動やお困り事など何でもお寄せください

日本共産党流山市震災対策本部

いぬい紳一郎事務所 7157-6140

小田桐たかし事務所 7154-8253

徳増きよ子事務所 7144-1753

植田和子事務所 7154-0288

救援活動の情報をお寄せ下さい

市議団のHPもご覧ください (FAX7157-6140)

<http://www.geocities.jp/kfbkd645/>